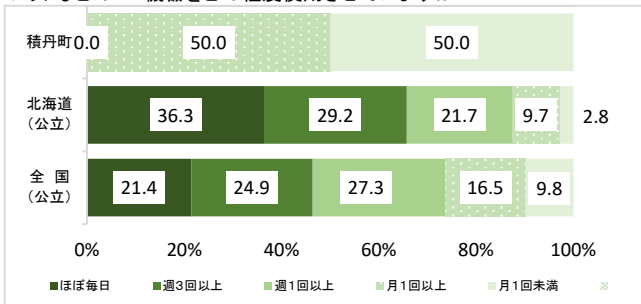


○ 質問調査の状況

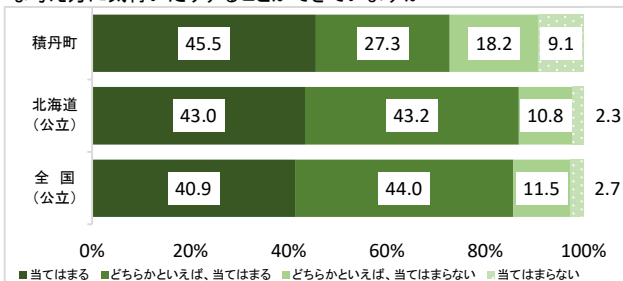
小学校 ＜学校質問＞

児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



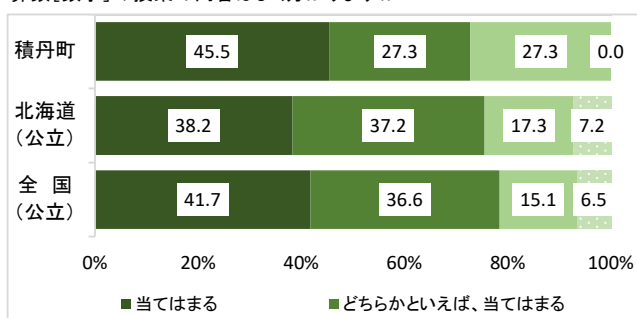
小学校 ＜児童質問＞

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



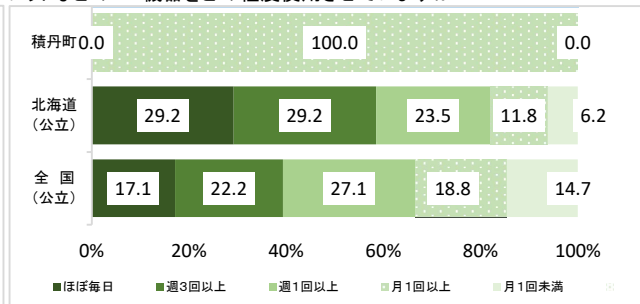
小学校 ＜児童生徒質問＞

算数[数学]の授業の内容はよく分かりますか



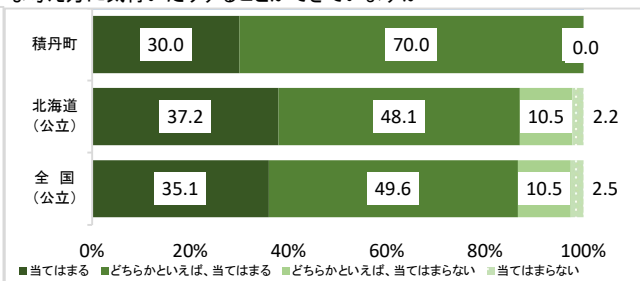
中学校 ＜学校質問＞

生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

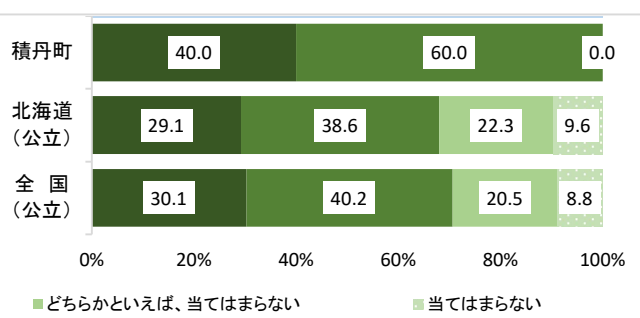


中学校 ＜生徒質問＞

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



中学校



○ 調査結果の分析

- 小学校算数の平均正答率が全国及び全道を大きく上回った結果は、「授業の内容がよく分かる(「当てはまる」)」と回答した児童の割合が全国及び全道より多いことを考慮すると、児童一人ひとりに筋道を立てて説明させることに重点を置いた授業改善を行ったことが要因の一つとして考えられる。

- 中学校数学の平均正答率が全国及び全道を上回った結果は、「授業の内容がよく分かる」と回答した生徒の割合が全国及び全道よりも非常に多いことを考慮すると、特に実生活における事象との関連を図る授業改善を行ったことが要因の一つとして考えられる。

- 小学校において、児童同士がやりとりする場面で、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答した児童の割合は、全国及び全道を10%以上下回った。このことは、協働的な学びの場面における、児童一人ひとりに配備されたICT機器の使用頻度を月1回未満とした回答が半数であり、全国及び全道に比べ低い状況にあることが要因の一つと考えられる。中学校においては、「新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答した生徒の割合は全国及び全道を上回ったが、ICT機器の使用頻度が月1回以上であり、全国及び全道に比べ低い状況にある。

○ 今後の改善方策

- ICT機器を活用した学習活動について、学習内容の確実な定着に向け、令和7年度中に更新予定の一人一台端末を活用した授業展開の見直しや、デジタル教科書の導入、家庭学習における活用、英語学習等のデジタル教材の活用など、学習の質の向上を図る。
- 中学生を対象とした放課後学習やオンライン形式によるサポートゼミナールを継続実施し、個別の生徒に特化した指導による学習習慣の定着と学力の向上を図る取組みを推進する。